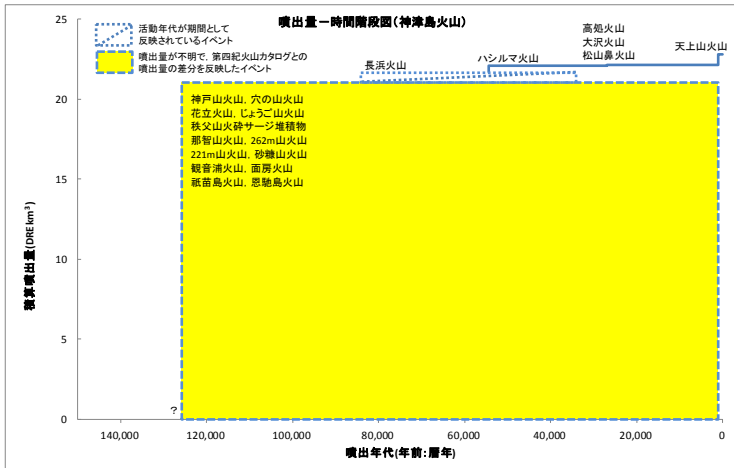


19) 神津島火山



19. 神津島火山			
噴出物	年代 (年前: 暦年)	噴出量 (DRE km³)	火山カタログ の噴出量
天上山火山	1176	0.66	
神戸山火山	1100-3000	(21.08に包含)	
穴の山火山	2000-3400	(21.08に包含)	
花立山	2000-3400	(21.08に包含)	
じょうご山 火山	25,500	(21.08に包含)	
株父山火砕 サージ堆積物A	19,000	(21.08に包含)	
株父山火砕 サージ堆積物B	25,000	(21.08に包含)	
高冠山火山			22.8 DRE km³
大沢火山	27,000	0.06	
松山鼻火山			
那智山火山	26,000	(21.08に包含)	
262m山火山	40,000	(21.08に包含)	
221m山火山	51,000	(21.08に包含)	
砂礫山火山	57,000	(21.08に包含)	
ハシルマ火山	54,500	0.36	
観音浦火山	64,500	(21.08に包含)	
長浜火山	34,000- 84,000	0.64	
面房火山	36,000	(21.08に包含)	
飯島山火山	不明	(21.08に包含)	
忍島山火山	70,000	(21.08に包含)	
株父山 火砕堆積物 (全体を包含)	1176- 126,000	(21.08)	
海浜溶岩 (基盤)	280,000	不明	不明

(): 火山カタログと文献の体積の差分

第 19-1 図 噴出量一時間階段図(神津島火山)

第 19-1 表 データセット (神津島火山)

名称 ^{注1)}	年代				噴出量							
	採種	年代値	文脈		採用年代値 ^{注2)}	文脈			採用噴出量 ^{注4)} (tBCE _{3m³)}	積算噴出量 ^{注4)} (tBCE _{3m³)}		
			標高	積算値		体積 ^{注5)}	種類	種類			体積 ^{注5)}	
天上山火山	溶岩ドーム	A0838 1560±120yBP 1260±160, 1360±130 1240±130, 1330±160 1310±130, 1350±260	② ③ ④ ⑤ ⑥	② ③ ④ ⑤ ⑥	1176	1176	0.4 ^{注6)}	引用	Δ	0.4	0.66	22.8
	火砕丘	1250±260, 1440±150 1530±30yBP	⑦ ⑧	⑦ ⑧			0.13 ^{注6)}	引用	Δ	0.13		
	降下火砕物	1950±110yBP 1240±150yBP 1530±180yBP	⑨ ⑩ ⑪	⑨ ⑩ ⑪			0.13 ^{注6)}	引用	Δ	0.13		
	火砕流 火砕サーージ	700~2000yBP	⑫	⑫			0.13 ^{注6)}	引用	Δ	0.13		
神戸山火山	溶岩ドーム	1100~3000	引用(水和層法)	●	1100-3000	不明	—	—	—	(21.08に包含)	22.14	
穴の山火山	溶岩ドーム	2000~3400	引用(水和層法)	●	2000-3400	不明	—	—	—	(21.08に包含)	22.14	
花立火山	溶岩ドーム	2000~3400	引用(水和層法)	●	2000-3400	不明	—	—	—	(21.08に包含)	22.14	
じょうご山 火山	溶岩ドーム	24±3, 27±3ka	ESR年代	●	25, 500	不明	—	—	—	(21.08に包含)	22.14	
株父山火砕 サーージ噴 物A	火砕流 降下火砕物	17,000±3000yBP	引用(行年代)	△	不明	不明	—	—	—	(21.08に包含)	22.14	
		19,140±220yBP	引用(14C年代)	△								
		13,840±660-610yBP	引用(14C年代)	△								
		128±32±3ka	ESR年代	△								
株父山火砕 サーージ噴 物B	火砕流 降下火砕物	17,000±3000yBP	引用(行年代)	△	不明	不明	—	—	—	(21.08に包含)	22.14	
		19,140±220yBP	引用(14C年代)	△								
		13,840±660-610yBP	引用(14C年代)	△								
		128±32±3ka	ESR年代	△								
高尾山火山	溶岩ドーム	10,000±4000yBP	引用(行年代)	△	27,000	27,000	0.02	引用	Δ	0.02	0.02	22.14
		10,000±4000yBP	引用(14C年代)	△								
		10,000±4000yBP	引用(14C年代)	△								
		10,000±4000yBP	引用(14C年代)	△								
大沢山火山	溶岩ドーム	10,000±4000yBP	引用(行年代)	△	27,000	27,000	0.02	引用	Δ	0.02	0.02	22.14
		10,000±4000yBP	引用(14C年代)	△								
		10,000±4000yBP	引用(14C年代)	△								
		10,000±4000yBP	引用(14C年代)	△								
松山鼻火山	溶岩ドーム	10,000±4000yBP	引用(行年代)	△	29,500	29,500	0.02	引用	Δ	0.02	0.02	22.14
		10,000±4000yBP	引用(14C年代)	△								
		10,000±4000yBP	引用(14C年代)	△								
		10,000±4000yBP	引用(14C年代)	△								
懸崖山火山	溶岩内頂丘	22±1, 42±2ka	ESR年代	◎	40,000	40,000	不明	—	—	—	(21.08に包含)	22.08
		22±1, 42±2ka	ESR年代	◎								
		22±1, 42±2ka	ESR年代	◎								
		22±1, 42±2ka	ESR年代	◎								
292m山火山	溶岩ドーム	35,000~47,000yBP	引用(水和層法)	▲	51,000	51,000	不明	—	—	—	(21.08に包含)	22.08
		35,000~47,000yBP	引用(水和層法)	▲								
		35,000~47,000yBP	引用(水和層法)	▲								
		35,000~47,000yBP	引用(水和層法)	▲								
砂礫山火山	溶岩流	70,000±5000yBP	引用(行年代)	◎	57,000	57,000	不明	—	—	—	(21.08に包含)	22.08
		70,000±5000yBP	引用(14C年代)	◎								
		70,000±5000yBP	引用(14C年代)	◎								
		70,000±5000yBP	引用(14C年代)	◎								
ハシルマ火山	溶岩流	60,000~79,000yBP	引用(水和層法)	△	54,500	54,500	0.8 × 10 ¹³ kg	引用	Δ	0.36	0.36	22.08
		60,000~79,000yBP	引用(水和層法)	△								
		60,000~79,000yBP	引用(水和層法)	△								
		60,000~79,000yBP	引用(水和層法)	△								
観音湧火山	溶岩流	64±5-7, 65±9-8ka	ESR年代	◎	64,500	64,500	不明	—	—	—	(21.08に包含)	21.72
		64±5-7, 65±9-8ka	ESR年代	◎								
		64±5-7, 65±9-8ka	ESR年代	◎								
		64±5-7, 65±9-8ka	ESR年代	◎								
長浜山火山	溶岩流	34,000±7000yBP	引用(行年代)	◎	34,000-84,000	34,000-84,000	1.6 × 10 ¹² kg	引用	Δ	0.64	0.64	21.72
		34,000±7000yBP	引用(14C年代)	◎								
		34,000±7000yBP	引用(14C年代)	◎								
		34,000±7000yBP	引用(14C年代)	◎								
櫻井山火山	溶岩流	47,000±60,000yBP	引用(水和層法)	▲	36,000	36,000	不明	—	—	—	(21.08に包含)	21.08
		47,000±60,000yBP	引用(水和層法)	▲								
		47,000±60,000yBP	引用(水和層法)	▲								
		47,000±60,000yBP	引用(水和層法)	▲								
神津島火山	溶岩ドーム	不明	不明	—	不明	不明	不明	—	—	—	(21.08に包含)	21.08
		不明	不明	—								
		不明	不明	—								
		不明	不明	—								
懸崖山火山	溶岩ドーム	0.08Ma	出典不明隕石	◎	70,000	70,000	不明	—	—	—	(21.08に包含)	21.08
		0.08Ma	出典不明隕石	◎								
		0.08Ma	出典不明隕石	◎								
		0.08Ma	出典不明隕石	◎								
株父山火砕 サーージ噴 物	降下火砕物, 火砕流, 火砕サーージ	0.97±0.055Ma	引用(14C年代)	◎	1176-126,000	1176-126,000	不明	—	—	—	(21.08に包含)	21.08
		0.97±0.055Ma	引用(14C年代)	◎								
		0.97±0.055Ma	引用(14C年代)	◎								
		0.97±0.055Ma	引用(14C年代)	◎								
堤浜溶岩	溶岩流(水 成花崗岩)	0.28Maより古い	引用(K-Ar年代)	◎	280,000	280,000	不明	—	—	—	—	—
		0.28Maより古い	引用(K-Ar年代)	◎								
		0.28Maより古い	引用(K-Ar年代)	◎								
		0.28Maより古い	引用(K-Ar年代)	◎								

注1) 名称については、より新しい知見に基づいて
注2) 測定結果のいずれかを使用した
注3) 幅がある場合には中央値を採用した
注4) 名称が不明な噴出物については、
注5) 測定結果から読み取った年代
注6) 層年校正にはCals7を使用した
注7) 噴出量の積算値は、噴出量Eを用いて
注8) 噴出量の積算値は、噴出量Eを用いて
注9) 噴出量の積算値は、噴出量Eを用いて
注10) 噴出量の積算値は、噴出量Eを用いて
注11) 噴出量の積算値は、噴出量Eを用いて
注12) 噴出量の積算値は、噴出量Eを用いて
注13) 噴出量の積算値は、噴出量Eを用いて
注14) 噴出量の積算値は、噴出量Eを用いて
注15) 噴出量の積算値は、噴出量Eを用いて
注16) 噴出量の積算値は、噴出量Eを用いて
注17) 噴出量の積算値は、噴出量Eを用いて
注18) 噴出量の積算値は、噴出量Eを用いて
注19) 噴出量の積算値は、噴出量Eを用いて
注20) 噴出量の積算値は、噴出量Eを用いて
注21) 噴出量の積算値は、噴出量Eを用いて
注22) 噴出量の積算値は、噴出量Eを用いて
注23) 噴出量の積算値は、噴出量Eを用いて
注24) 噴出量の積算値は、噴出量Eを用いて
注25) 噴出量の積算値は、噴出量Eを用いて
注26) 噴出量の積算値は、噴出量Eを用いて
注27) 噴出量の積算値は、噴出量Eを用いて
注28) 噴出量の積算値は、噴出量Eを用いて
注29) 噴出量の積算値は、噴出量Eを用いて
注30) 噴出量の積算値は、噴出量Eを用いて
注31) 噴出量の積算値は、噴出量Eを用いて
注32) 噴出量の積算値は、噴出量Eを用いて
注33) 噴出量の積算値は、噴出量Eを用いて
注34) 噴出量の積算値は、噴出量Eを用いて
注35) 噴出量の積算値は、噴出量Eを用いて
注36) 噴出量の積算値は、噴出量Eを用いて
注37) 噴出量の積算値は、噴出量Eを用いて
注38) 噴出量の積算値は、噴出量Eを用いて
注39) 噴出量の積算値は、噴出量Eを用いて
注40) 噴出量の積算値は、噴出量Eを用いて
注41) 噴出量の積算値は、噴出量Eを用いて
注42) 噴出量の積算値は、噴出量Eを用いて
注43) 噴出量の積算値は、噴出量Eを用いて
注44) 噴出量の積算値は、噴出量Eを用いて
注45) 噴出量の積算値は、噴出量Eを用いて
注46) 噴出量の積算値は、噴出量Eを用いて
注47) 噴出量の積算値は、噴出量Eを用いて
注48) 噴出量の積算値は、噴出量Eを用いて
注49) 噴出量の積算値は、噴出量Eを用いて
注50) 噴出量の積算値は、噴出量Eを用いて
注51) 噴出量の積算値は、噴出量Eを用いて
注52) 噴出量の積算値は、噴出量Eを用いて
注53) 噴出量の積算値は、噴出量Eを用いて
注54) 噴出量の積算値は、噴出量Eを用いて
注55) 噴出量の積算値は、噴出量Eを用いて
注56) 噴出量の積算値は、噴出量Eを用いて
注57) 噴出量の積算値は、噴出量Eを用いて
注58) 噴出量の積算値は、噴出量Eを用いて
注59) 噴出量の積算値は、噴出量Eを用いて
注60) 噴出量の積算値は、噴出量Eを用いて
注61) 噴出量の積算値は、噴出量Eを用いて
注62) 噴出量の積算値は、噴出量Eを用いて
注63) 噴出量の積算値は、噴出量Eを用いて
注64) 噴出量の積算値は、噴出量Eを用いて
注65) 噴出量の積算値は、噴出量Eを用いて
注66) 噴出量の積算値は、噴出量Eを用いて
注67) 噴出量の積算値は、噴出量Eを用いて
注68) 噴出量の積算値は、噴出量Eを用いて
注69) 噴出量の積算値は、噴出量Eを用いて
注70) 噴出量の積算値は、噴出量Eを用いて
注71) 噴出量の積算値は、噴出量Eを用いて
注72) 噴出量の積算値は、噴出量Eを用いて
注73) 噴出量の積算値は、噴出量Eを用いて
注74) 噴出量の積算値は、噴出量Eを用いて
注75) 噴出量の積算値は、噴出量Eを用いて
注76) 噴出量の積算値は、噴出量Eを用いて
注77) 噴出量の積算値は、噴出量Eを用いて
注78) 噴出量の積算値は、噴出量Eを用いて
注79) 噴出量の積算値は、噴出量Eを用いて
注80) 噴出量の積算値は、噴出量Eを用いて
注81) 噴出量の積算値は、噴出量Eを用いて
注82) 噴出量の積算値は、噴出量Eを用いて
注83) 噴出量の積算値は、噴出量Eを用いて
注84) 噴出量の積算値は、噴出量Eを用いて
注85) 噴出量の積算値は、噴出量Eを用いて
注86) 噴出量の積算値は、噴出量Eを用いて
注87) 噴出量の積算値は、噴出量Eを用いて
注88) 噴出量の積算値は、噴出量Eを用いて
注89) 噴出量の積算値は、噴出量Eを用いて
注90) 噴出量の積算値は、噴出量Eを用いて
注91) 噴出量の積算値は、噴出量Eを用いて
注92) 噴出量の積算値は、噴出量Eを用いて
注93) 噴出量の積算値は、噴出量Eを用いて
注94) 噴出量の積算値は、噴出量Eを用いて
注95) 噴出量の積算値は、噴出量Eを用いて
注96) 噴出量の積算値は、噴出量Eを用いて
注97) 噴出量の積算値は、噴出量Eを用いて
注98) 噴出量の積算値は、噴出量Eを用いて
注99) 噴出量の積算値は、噴出量Eを用いて
注100) 噴出量の積算値は、噴出量Eを用いて

第 19-2 表 (1) 活動履歴帳票 (神津島火山)

19. 神津島火山				データベース (DB) 等による年代・体積										
噴火史の概略				主要参考文献 一色 (1982)										
活動期	細分・別称	噴出物	マグマ種類	噴火様式	年代	根拠	引用信頼度	体積 (注) DRE(km ³)	根拠	引用	信頼度			
流紋岩質 単成火山群 (数万~約10 万年前以降 ^{*1})	天上山火山		流紋岩	溶岩ドーム (天上山溶岩円頂丘、 天上山クラウンブル角礫岩 ^{*2})	A0838 1560±120yBP 1260±160, 1360±130 1240±130, 1330±160 1310±120, 1250±260 1250±260, 1440±150 1530±190, 1260±80 1200±30yBP	古文書解析 ¹⁾ °C年代、 遠藤邦彦 引用 ¹⁾ °C年代 °C年代 °C年代 °C年代 °C年代 °C年代 引用 ¹⁾ °C年代 引用 ¹⁾ °C年代 引用 ¹⁾ °C年代 引用 (水層法)	+1.7 ◎ +1 ◎ +7 ◎ +7 ◎ +7 ◎ +7 ◎ +7 ◎ +1 ◎ +3 ◎ +3 ◎ +3 ◎	0.4	引用	DB	△			
				火砕丘、降下火砕物 (クシガ草軽石丘、白鳥軽石丘 ^{*3})	1950±110yBP 1240±130yBP 1530±190yBP 700~2000yBP	引用 ¹⁾ °C年代 引用 ¹⁾ °C年代 引用 ¹⁾ °C年代 引用 (水層法)	+1 ◎ +3 ◎ +3 ◎ +3 ◎	0.13				引用	DB	△
				火砕流、火砕サージ (白ママ火山砕屑物 ^{*4})	1100~3000	引用 (水層法)	+3 ◎	不明						
	5千年前 以降 ^{*1}	神戸山火山 (神戸山溶岩円頂丘 神戸山クラウンブル角礫岩)	流紋岩	溶岩ドーム	2000~3400	引用 (水層法)	+3 ◎	不明	-	-	-			
	1万年前 前後 ^{*1}	穴の山火山 (アナギ山溶岩円頂丘)	流紋岩	溶岩ドーム	2000~3400	引用 (水層法)	+3 ◎	不明				-	-	-
		花立火山 (雷山溶岩円頂丘)	流紋岩	溶岩ドーム	2000~3400	引用 (水層法)	+3 ◎	不明						
	5万~1万年前 ^{*1}	じょうご山火山 (文五郎山溶岩円 頂丘、文五郎山火山砕屑物 ^{*5})		流紋岩	溶岩ドーム (給源不明の火山砕屑物)	24±3, 27±3ka	ESR年代	+3 △	不明	-	-	-		
					株父山火砕サージ堆積物A (大沢・松山鼻: 19-22ka ^{*6}) 株父山火砕サージ堆積物B (高尾山火山: AT(29cal)kaの 少し前 ^{*4})	火砕サージ、火砕流、 降下火砕物	17,000±3000yBP 19,140±220yBP 20,830±580-540yBP 21,860±660-610yBP 26±1, 32±3ka 21,020±410yBP 19ka 25ka	引用 (F年代) 引用 ¹⁾ °C年代 引用 ¹⁾ °C年代 引用 ¹⁾ °C年代 ESR年代 引用 ¹⁾ °C年代 引用 (サージA) 引用 (サージB)	+3 △ +3 ◎ +3 ◎ +3 ◎ +6 ◎ +5 △ +5 △				不明	-
		高尾山火山 (高尾山溶岩円頂丘)	流紋岩	溶岩ドーム	同時期 20,000±4000yBP 35,000~47,000yBP	岩質の類似性 引用 (F・松山鼻) 引用 (水層法) 松山鼻、大沢	+1 △ +3 △ +3 ▲	0.02	根拠未記載	+1	△			
		大沢火山 (大沢溶岩円頂丘)	流紋岩	溶岩ドーム	40,000±7000yBP 23,000~35,000yBP	引用 (F・高尾) 引用 (水層法・高尾) 引用 ¹⁾ °C年代 ESR年代 (大沢)	+3 △ +3 ◎ +3 ◎	0.02				根拠未記載	+1	△
		松山鼻火山 (松山鼻溶岩円頂丘)	流紋岩	溶岩ドーム	23±2, 31±2ka 29±1, 30±2ka	引用 ¹⁾ °C年代 ESR年代 (松山鼻)	+3 ◎ +3 ◎	0.02	根拠未記載	+1	△			
		那智山火山 (那智山溶岩)	流紋岩	溶岩円頂丘	23+4-3, 29±3ka	ESR年代	+3 ◎	不明				-	-	-
		262m山火山 (那智山溶岩 ^{*2} の一部)	流紋岩	溶岩円頂丘	32±1, 48±2ka	ESR年代	+3 ◎	不明	-	-	-			
		221m山火山 (阿波命溶岩円頂丘)	流紋岩	溶岩ドーム	35,000~47,000yBP 48±6, 54±9-8ka	引用 (水層法) ESR年代	+3 ▲ +3 ◎	不明				-	-	-
		10万~5万年前 ^{*1}	砂糠山火山 (砂糠山溶岩)		流紋岩	溶岩流	70,000±5000yBP <80,000yBP 51,000±4000yBP 60,000~79,000yBP 46±3, 68±5ka	引用 (F年代) 引用 (K-Ar年代) 引用 (F年代) 引用 (水層法) ESR年代	+3 ◎ +3 ◎ +3 ◎ +3 ◎	不明	-			
						ハンルマ火山 (走る間溶岩)	流紋岩	溶岩流	60,000~79,000yBP 40+4-3, 69±5ka 80ka	引用 (水層法) ESR年代 堆積速度の内挿		+3 △ +3 ▲	0.9× 10 ¹² kg	根拠未記載 ^{*2}
	観音浦火山		流紋岩	溶岩流	64+5-7, 65+9-8ka	ESR年代	+3 ◎	不明	-	-	-			
	長浜火山 (沢尻湾火道角礫岩、 名組湾溶岩、沢尻湾溶岩)		流紋岩	溶岩流	34,000±7000yBP 47,000~60,000yBP 84,000±8000yBP 40+8-6, 46±8ka 51±4, 52+5-4ka 70ka	引用 (F年代) 引用 (水層法) 引用 (F年代) ESR年代 (沢尻湾溶岩) ESR年代 (名組湾 溶岩) 堆積速度の内挿	+3 ◎ +3 ▲ +3 ◎ +3 ◎ +4 △	1.6× 10 ¹² kg				根拠未記載 ^{*2}	+4	△
	面房火山 (面房溶岩)		流紋岩	溶岩流	47,000~60,000yBP 35±5, 37±2ka	引用 (水層法) ESR年代	+3 ▲ +3 ◎	不明	-	-	-			
	紙巻島火山		流紋岩	溶岩ドーム	不明	-	-	-				不明	-	-
恩馳島火山	流紋岩	溶岩ドーム	<0.08Ma 0.07±0.005Ma	出典不明黒曜石 引用 (K-Ar, FT)	+1 ◎	不明	-	-	-	-				
基盤	返浜溶岩	デイサイト	溶岩流 (水長石化作用)	0.28Maより古い	引用 (K-Ar)	+1 ◎					不明	-	-	-
株父山火砕堆積物 (株父山火山 砕屑物上部層・下部層)	流紋岩	初期の降下火砕物や 火砕流、火砕サージを一括 (株父山火砕サージと一部重複)	不明 (初期)	-	-	-	不明	-	-	-				

※1: 第四紀火山カタログ委員会編(1999)を引用
※2: 文献中の階段図等から読み取った値
注) DREに換算されている場合は斜線で表記した

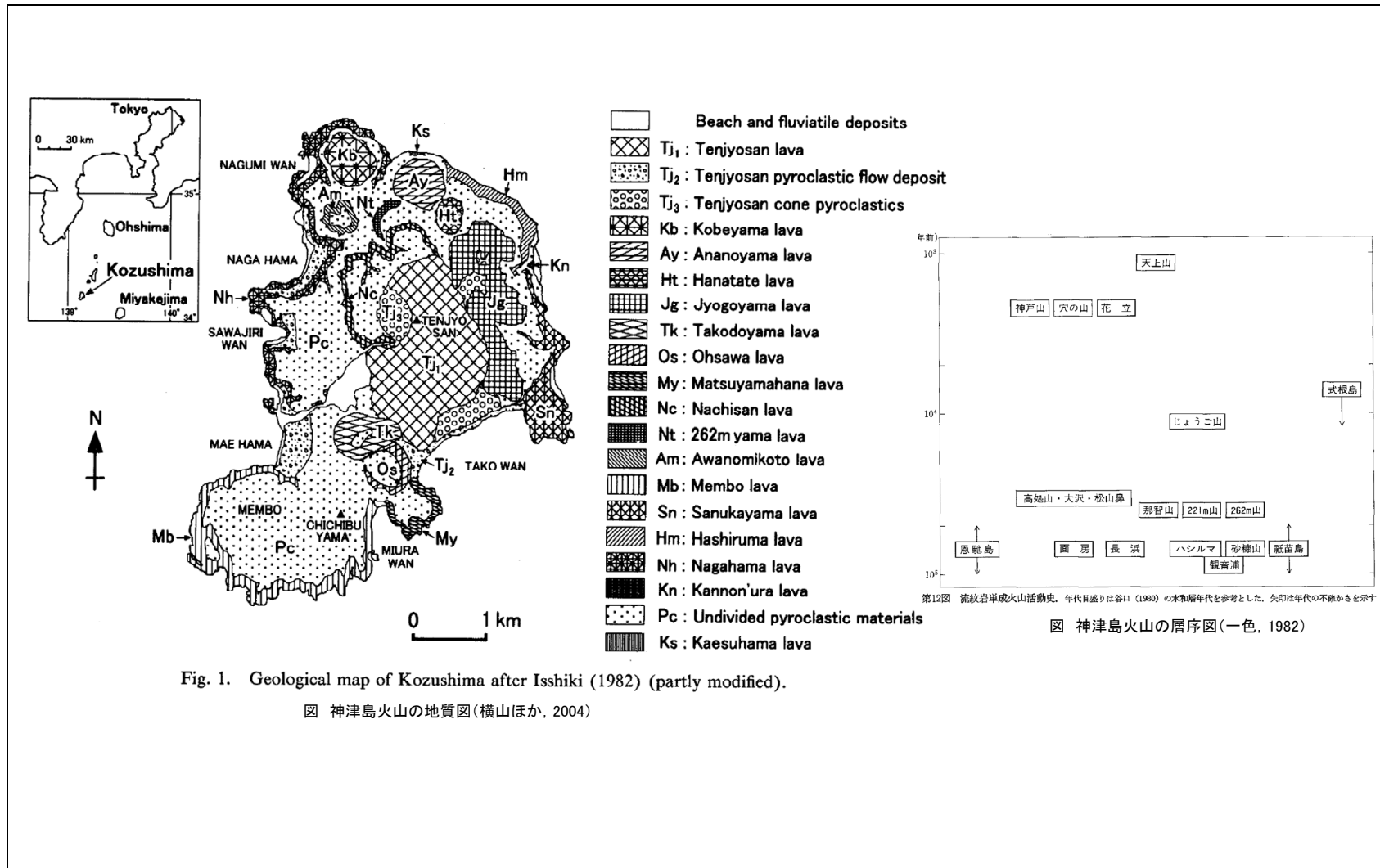
・放射年代: ◎ 直接測定、○ 講演要旨等
△ 順序と矛盾、試料・測定に疑問、根拠未記載
● 堆積速度の内挿、時間間隔を均等分配、推定
★ 上下層が根拠付で推定 ▲ 上下層が未確認
・古文書解析、近代観測: ◎

信頼度
◎ > ○ > △

引用文献
*1: 一色直記 (1982): 神津島地域の地質。地域地質研究報告 5万分の1図幅。地質調査所。84p.
*2: 谷口宏充 (1977): 神津島の火山地質。火山。22。3。pp.133-147。
*3: 横山 正、高田要子、梅村崇志、豊田 新 (2004): 神津島流紋岩質単成火山群のESR年代。火山。49。1。pp.23-32。
*4: 百田 浩 (1991): 神津島単成火山群の噴火史。日本火山学会講演予稿集。E21-08。
*5: 齋藤公一浩、増村 泉、林 義一郎、津久井雅志 (2005): 伊豆諸島のテフラ層序-新島・神津島起源の流紋岩質テフラの追跡。日本地球惑星科学連合講演要旨。G017-P005。
*6: 菅 香世子、宮崎裕子、千木良雅弘、遠藤邦彦、村上寛史 (2003): 神津島高尾山火山の形成時期。火山。48。6。pp.499-505。
*7: 富樫茂子 (1984): 神津島天上山火山噴出物の炭化木の14C年代。火山。29。4。pp.277-283。
(参考) 谷口宏充 (1980): 神津島流紋岩のガラス質石基に見られる水層とその火山地質学的意義。火山。25。4。pp.217-229。

第 19-2 表 (2) 活動履歴帳票 (神津島火山)

19. 神津島火山



第 19-4 表 収集文献リスト（神津島火山）

No	著者	発行年	題名	雑誌名	記載事項の有無										備考
					噴出量- 時間 階段図	噴出量 (体積)	方法	活動 年代	方法	層序	噴出物 分布	噴火 様式	マグマ 特性	その他	
19-a	伊藤順一	1999	伊豆、新島および神津島における噴火災害の要因分析	月刊地球	×	○	e	○	C, D	○	○	○	×	-	
19-b	一色直記	1982	神津島地域の地質	地域地質研究報告 5万分の1地質図幅	×	○	e	○	D	○	○	○	○	-	
19-c	横山 正、島田愛子、梅村崇志、 豊田 新	2004	神津島流紋岩質単成火山群のESR年代	火山	×	×	-	○	A, D (ESR)	○	×	×	×	-	
19-d	吉田 浩	1991	神津島単成火山群の噴火史	日本火山学会 講演予稿集	◎ (●)	○	e	○	D	○	×	×	×	-	
19-e	吉田 浩	1996	伊豆新島、神津島起源のテフラと始良Tnテフラ	第四紀露頭集	×	×	-	○	F	○	×	×	×	-	
19-f	吉田 浩	1996	伊豆諸島で9世紀にあって起こった噴火 -神津島天上山テフラ、新島向山テフラ-	第四紀露頭集	×	×	-	○	F	○	×	×	×	-	
19-g	吉田武義、木村純一、谷口宏充、 増合清茂	1996	マグマ水蒸気爆発に伴う神津島流紋岩の組成変化	日本火山学会 講演予稿集	×	×	-	×	-	×	×	○	○	-	
19-h	宮原智哉、印牧もとこ、菊本紀男、 遠藤邦彦	1994	Dome collapseで形成されたblock and ash flowの特徴 -1990～雲仙普賢岳・神津島天上山噴火に伴う噴出物-	日本火山学会 講演予稿集	×	×	-	○	F	×	×	○	×	-	
19-i	齋藤公一進、増村 泉、林 幸一郎、 津久井雅志	2005	伊豆諸島のテフラ層序-新島・神津島起源の流紋岩質テフラの追跡-	日本地球惑星科学連合 講演要旨	×	×	-	○	A, D (¹⁴ C)	○	○	×	×	-	
19-j	杉原重夫、福岡孝昭、大川原竜一	2001	伊豆諸島、神津島天上山と新島向山の噴火活動	地学雑誌	×	×	-	○	C, D	○	○	○	×	-	
19-k	菅 香世子、小林勝己、印牧もとこ、 宮原智哉、遠藤邦彦	1992	神津島南部の火砕堆積物	火山	×	○	a	○	B, D	○	○	○	×	-	
19-l	菅 香世子、宮崎裕子、千木良雅弘、 遠藤邦彦、村上寛史	2003	神津島高畑山火山の形成時期	火山	×	×	-	○	B, D	○	×	○	○	-	
19-m	大森昌術 編	1986	日本の地質3 関東地方	日本の地質	×	×	-	○	D	×	○	×	×	-	
19-n	谷口宏充	1977	神津島の火山地質	火山	×	×	-	○	D	○	○	○	×	-	
19-o	谷口宏充	1980	神津島流紋岩のガラス質石基に見られる水層とその火山地質学的意義	火山	×	×	-	○	D, E	×	×	×	×	水層層法	
19-p	日本地質学会 編	2008	日本地方地質誌3 関東地方	日本地方地質誌	×	×	-	○	D, F	×	○	×	×	-	
19-q	東京都防災会議	1990	伊豆諸島における火山噴火の特質等に関する調査	伊豆諸島における火山噴火の特質等 に関する調査、研究報告書	×	○	e	○	D	○	○	○	×	-	
19-r	富樫茂子	1984	神津島天上山火山噴出物中の炭化木の ¹⁴ C年代	火山	×	×	-	○	A, C, D (¹⁴ C)	×	○	×	×	-	
19-s	須藤 茂、猪股隆行、佐々木 寿、 向山 栄	2007	わが国の降下火山灰データベース	地質調査研究報告	×	○	d	○	E	×	○	×	×	分布を引用し GISで算出	
19-t	福岡 久、磯 望	1980	神津島産黒曜石のフィッション・トラック年代	日本火山学会 講演予稿集	×	×	-	○	A (FT)	×	×	×	×	-	
19-u	気象庁 編	2013	61. 神津島	日本活火山総覧 (第4版)	×	○	c	○	D	×	○	○	×	-	
19-v	町田 洋、新井房夫	2011	新編 火山灰アトラス 日本列島とその周辺	東京大学出版会	×	○	a, c	○	A, B, C, D	○	○	○	○	-	
19-w															
19-x															
19-y															
19-z															

◎: 記載あり(優良) a: 地質調査
○: 記載あり b: 地質図等
(噴出量の対象) c: 引用
●: 降下火砕物 d: その他
■: 溶岩流 e: 不明
▲: 山体一括

A: 放射年代
B: 層序
C: 本文書記載
D: 引用
E: その他
F: 不明